

崎 定 長 検

一級 さん

Vol.42

長崎がもっと好きになる

まつお
松尾

てるひさ
照久さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言ありそつです。
ざっくばらんに寄稿願いました。

私は長崎市稲佐で生まれ、大学進学で県外に出た以外は現在まで長崎に住んでいます。長崎

の定番観光地のごとは、「大浦天主堂と崇福寺は国宝、グラバー邸は港と街並みが見渡せる眺めがいい場所、眼鏡橋は川面に橋が映って丸い眼鏡の形に見える・・・。」県外から訪れた友人たちにしたり顔でこんな説明をしていました。それが、長崎検定に出会って、私を知っていたのは名前だけ、その歴史は全く知らないこと知りました。出合いのきっかけは、江戸時代の長崎市中の地図を現代の管内図に重ねて描かれた『復元！江戸時代の長崎』（布袋厚著、2009）を偶然みかけたことでした。ここから昔の長崎に興味を湧き、長崎検定に挑戦し、平成最後の年に念願が叶いました。

こうしたなかで、自分が長崎の歴史に触れた瞬間があったことに気付きました。一つは、慶長14年長崎港で起きた有馬勢によるポルトガル船マードレ・デ・デウス号の焼討ち爆沈事件です。昭和53年頃、この沈船の船体確認調査にダイバーとし

て参加したことがあります。このときは、江戸時代に沈んだ船をこの目で見ることにしか眼中になく、惜しいことに事件の背景に思いを馳せることはありませんでした。船体確認は期待に反して空振りに終わりました。もう一つは、子供の頃の遊び場が由緒ある古跡寺院だったことです。悟真寺の墓地で鬼ごっこ、正覚寺の坂段で紙芝居見物、清水寺の裏庭で小さなサンショウウオを捕まえてりして遊んでいました。

長崎の歴史を知るうちに、とても驚かされたことがあります。それは、数多くの外国人が東西の文化、科学技術などを長崎で伝え、後世に続く支えとなったことです。極東の島国に來航し献身的に活動した彼らには感嘆、敬服するばかりです。名前を挙げれば切りがありませんが、個人的には長崎ゆかりの外国の偉人ベスト5は隠元さん、アルメイダさん、シーボルトさん、グラバーさん、フルベッキさんです。

彼らに限らず内外の先賢者の足跡は文化財、石碑や案内説明板などで身近に感じることができて

興味深いです。ただ、ごく一部とは思いますが、案内板などが劣化して記載が不明瞭になっていた、脱落したり、史跡そのものが時期によっては雑草に覆われてしまっていることがあります。これには期待して訪れた気持ちしがばみず。

長崎検定で、長崎がかつて貿易や近代化の日本の先進都市の一つであったことを知り、長崎のことが誇らしくもつと好きになりました。知ることが好きになる第一歩です。たくさんの方が長崎のことをもつと知れば、たくさんの方が長崎のことをもつと好きになって、長崎はもつと優しくっていい街になると思います。



【プロフィール】

1951年長崎市稲佐生まれ、2018年定年退職、68歳。趣味は長崎学講座の聴講、沖縄三線。長崎の好きな所は長崎港と稲佐山の眺め。